

児童会館での子ども料理教室

事業実施主体:生活協同組合コープさっぽろ(北海道)

- コープさっぽろは、食品を供給する事業者としての立場から消費者に食の楽しさや大切さを伝える取組として、地域での共食の場の提供や、親子農作業体験、年間30,000人を集める体験型イベント「食べるたいせつフェスティバル」などを、北海道内各地で行っている。
- 児童会館での子ども料理教室では、健康的な食生活を送る基礎を身につけることを目的として、子どもたちが、食育講座等を通じて、料理教室で使用する食材や栄養バランスについての理解を深めた。また、「食」という共通の話題や関心事があることにより、子どもたちとスタッフや地域の保護者ボランティアとの交流が深まり、地域コミュニティ活性化の一助となった。



【取組の内容】

- 「おうちごはん」の開催
札幌市内の児童館10カ所において、子ども料理教室を開催し、児童館を利用する子ども 計 144人が参加した。
身近なメニューである、味噌汁とおにぎりを作り、みんなで食べることで、作る楽しさと共食の楽しさを体験した。



大きな出汁昆布を引き上げる



真剣にかつお節を削る様子



食育講話にも興味深々



おにぎり上手にできたかな

【取組の成果】

- 子どもたちは、かつお節を削るところから始める本格出汁の味噌汁づくりや自分で握るおにぎりづくりを体験し、家庭で見る機会が少なくなったかつお削りや大きな昆布に触れることなどで、食への関心を高めることができた。
- 家庭で米を研いだり包丁を使ったりする機会が少ない子どもにも体験の機会を提供することができたことで、子どもの意欲と家庭での会話などを通じて家族への波及を期待することができた。

【事業の目標】

- ① 地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やす。
事業実施前 57.8%
→事業実施後 93.8%
- ② 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす。
事業実施前 69.8%
→事業実施後 87.1%

